

その時が来るまで じっと、待つ

今年の梅雨明けは、7月8日と早く、その直後から真夏の暑さになりました。北アフリカ原産のオクラは、暑いのが大好き。これから9月にかけて、毎日、オクラが採れるようになりました。

種をまいたのは、気温が高くなってきた5月の中旬。夏野菜の中では一番遅い種まきですが、畑に定植してからもじっとそのまま大きくならず、その上、葉の裏に黒いアブラムシがついているものもあり、様子を見に行くたびに、「ちっとも大きくならんねえ…」「大丈夫かねえ…」という日々。でも、それから約2カ月、今ではこんなに大きくなりました。

私たちがしたのは、様子を見に行ったこと、草取りをしたこと、うね間の草を刈ったこと、そして、支柱を立ててくれたことくらい。ちゃんと元気に大きくなって、今では頼もしい限りです。



赤いオクラは、茎も真っ赤です。実はゆでると赤い色が抜けてしまうので、生で刻んでいただきます。

肉厚で大きなピーマンです
デカチャンプ



緑色のピーマンを2種類と、3色のカラーピーマンを作っています。カラーピーマンが色づき始めるのは、もう少し先。今は間引きながら、緑色の実を収穫しています。

トマトの収穫が始まりました
露地のミニトマト



7月末になって、ミニトマトやトマトが色づき始めました。加熱用のクッキングトマトも、もう一息です。お楽しみに！

作りやすくて、おいしいです
緑色のナス



ナスといえば、紫色が一般的ですが、この緑色のナスは、丈夫で甘みがあって、おいしいナスです。この他に、白いナス、米ナスも作っています。

tonchanのQ&A

Q. 暑い中の畑作業、どんなことをしているのですか？

7月後半から、ナス、ピーマン、トマト、オクラなど夏野菜の収穫が始まり、野菜セットの内容も夏本番になってきましたが、畑ではもう冬の準備が始まります。

キャベツ、白菜、人参など、冬から来年の春まで収穫する野菜の種まきが8月初めから、育てた苗の定植が8月後半から始まります。

標高が高く冬の最低気温が低いので、冬は露地での野菜作りは難しいといわれますが、ハウレン草、ターサイなど、雪に埋もれても枯れることなく、じっくりと大きく育ちます。タイミングをのがさず、種まき、定植をしていきます。

Q. 広い畑、夏は草刈りが大変ですね。

この時期、畑では野菜だけでなく雑草もぐんぐん大きくなり、ちょっと油断すると野菜が草の中に埋もれてしまいます。野菜の成長や収穫には邪魔な草たちですが、畑にすき込んで緑肥にしたり、草刈り機で刈って干した後に、敷き草として利用したりしています。畑一面エノコログサになったり、オオイヌノフグリになったりと、耕す時期によって、生えてくる草が変わるのも、面白いです。何もなくても生えてくる草は、ある意味大切な財産。いい“草との付き合い方”ができればいいな…と思っています。

なぜ、キュウリの種を？

今までも、カボチャやソウメンウリなど、食べた後の種をとっておけばいいものや、交雑の心配の少ないオクラの種は採っていましたが、キュウリの種どりをちゃんとするのは、今回が初めて。気に入っているイタリアのキュウリの種が手に入らないので、ちょっとムズカシイキュウリの種どりに挑戦することになりました。

どうやって？

図書館で借りてきた「自家採種ハンドブック」（現代書館）によれば、キュウリは違う種類のキュウリと交雑するので、人工授粉をすることに。まず、翌日に咲くであろう雄花と雌花のつぼみを見つけて、花が開いてしまわないように、小さい洗濯バサミで閉じておきます。これで、早朝ハチが花に入るのを防ぐことができます。しかし、まず初めに、翌日咲くであろうつぼみがどれかわからない。何度か試みて、つぼみから黄色い花びらがのぞいているものの加減がわかりました。

そして、翌朝、いくつかの雄花の花粉を雌花につけ、雌花には覆いをかけておきました。が、キュウリの花粉の小さいこと！ 目ではほとんど見えません。ちゃんと受粉したかどうか心配でした。

この後は？

本によれば、完熟してから3週間待って、収穫。1～3週間追熟…と、なる予定です。6個の雌花で人工授粉を試みて、4個の実が大きくなってきています。



2011/07/10 授粉後4日め。



2011/07/25 授粉後19日め。
20cmくらいに大きくなりました。



インゲン豆やモロッコ豆は、交雑の心配がほとんどない自家受粉なので、これも種をとってみようと、サヤをそのまま残してみています。

写真はモロッコ豆。

サヤが黄褐色に変わったら、株ごと抜きとって乾燥させます。